

## 先日行われた村上くんによる 農業体験に直撃しました。

農業体験を開催しようと思っただけきさつを  
教えて下さい。

高校までの18年間当たり  
前のように淡河に住んでい  
ました。農業というものが当  
たり前すぎていいものとは思  
えませんでした。それから大  
学に進み、淡河を出て大阪  
に行き、農業の「の」の字も  
ない生活をしていました。

あるとき、農業体験イベン  
トに友人に誘われてなんと  
なく行ったのですが、そこで  
出会った人たちはそこで自  
分が当たり前と思っていた農  
業に対してとても新鮮な気  
持ちで接していました。例え  
ば「この苗は何の苗です  
か?」「ああ、それはトマトだ  
よ。」というようなやりとり  
が逆に僕にとっては新鮮でし  
た。こうやって淡河の外で土  
に接することで、土いじりの  
良さを再確認することがで  
きました。

みんな新鮮な気持ちで作  
物と向き合っていて、大人も  
子供も子供は楽しそうに実  
る野菜の成り立ちを見ては  
しゃべっている様子が印象的だ  
ったのを覚えています。  
そんなとき僕の中で芽生



えたのが農業に関心がある  
のにできないまちの人たちに  
農業と接する場を作ってあ  
げたいと思いました。そうい  
うわけで、田植え体験をおじ  
いちゃんやっている田んぼ  
でしようとする計画をは  
じめていました。

具体的には大阪で農業体  
験をしていた繋がりをもとに  
参加者を募り、あえて昔なが  
らの道具を使っておじいちゃ  
んにノウハウを伝えてもらい  
ながら、田植え体験を行いま  
した。あえて農業のしんどい  
側面も見てもらいたい、参  
加者の皆さんには田植えのい  
いとこりをしてもらうので  
なく、一枚の田んぼをすべて  
任せることにしました。つい  
でに田舎に泊まろう企画も  
しましたね。

田植え体験をしてみ  
てどうでしたか?

いろいろ自分でも学ぶこと  
は多く、とてもおもしろかつ  
たです。特に、農業を通して  
同世代のコミュニティが広が  
っていくのはおもしろい。来  
た人が淡河に住む住まない  
は別にして、淡河を知っても  
らうきっかけになったかなあ

と。何より自分がやれること  
があつて楽しい。ただそれだ  
けです。

あとは、もっと若い人に農  
業に対して興味を持っても  
らえたらいいですね。楽しく  
ない、しんどそうという考え  
方が変わればいいなあと思  
います。食卓にのぼる作物の育  
つ過程や実る喜びを体感し  
てもらえたらきつと考え方  
も変わるはずですよ。みんな食  
べ物に育ててもらっているん  
だから、食べ物を育ててあげ  
ないと!淡河の環境を生か  
して、まちの人と自然に繋が  
れるようなことをもっとして  
いきたいと思っています。稲  
刈り体験は10月16日に実施  
します。楽しみですよ。



6月13日に開催された田植え体験の様。雨にも関わらず、参加者の顔は真剣そのもの。

むらかみ・まさひろ

1985年淡河町生まれ。大阪産業大学では情報工  
学を専攻。大学を卒業し、三木の某農機具メーカ  
ーにて働いている。淡河で移動式カフェをやる野望  
をさりげなく計画中。

# 今号のおうごびと 村上昌弘

Masahiro Murakami  
(本町)

淡河の魅力のひとつはなんていってもあたたかい人の心。  
そんな人たちを知らないなんてもったいない。  
この特集では、淡河で素敵な取り組みをされている方に  
焦点を当て、どのような取り組みをされているかご紹介させていただきます。

Photo & Text by Yusuke Yasufuku

## 淡河の魅力的な人材、 求む!

淡河のまたは淡河で素敵な試みをされている方を  
紹介して下さい。自薦、他薦は問いません。取材に  
お伺いさせていただきます。尚、本誌の趣旨に反す  
る場合はお断りさせていただくこともあることをご承  
下下さい。

淡河町まちづくり研究会

〒651-1605

神戸市北区淡河町萩原830-10

TEL : 078-220-8095

FAX : 078-220-8068

メール : info@ogo-machiken.com

事務局営業時間：平日 9:00-18:00まで

(12:00-13:00を除く)

打ち合わせ、取材等で外出時もございますのでそ  
の際には下記までご連絡下さい。

携帯 : 090-8793-9206(事務局 安福)